

パウロのキリスト1

シリーズ・パウロ 第10回

パウロとイエス

- 直接の接点はないのでは
 - パウロの発言や手紙にはイエスの公生涯についての記録がまったくない
- パウロは、イエスをメシアであると信じる人々を迫害していた
 - イエスはパウロが最も憎んだ人物だった
- ダマスコ事件以後、最強の宣教者となった
 - **イエスの声を聞き**、目が見えなくなり、アナニアに祈られて目から鱗のような物が落ちた

なぜパウロは命がけでイエスを伝えるようになったのか

- イエスが素晴らしい人物であり、見習うべき方だと思ったからではない
- パウロはイエスの教えを伝承していない
 - 福音書のようにイエスの言動を紹介していない
 - イエスの歴史的出来事については受肉と死と復活だけに限定されている
- イエスがパウロのすべてであったから
 - 「わたしにとって、生きるとはキリストであり」

パウロにとってイエスとは ～イエスの呼び方～

- 「主イエス」(23節)
 - 「イエス」単独(12節): 最も少ない
- 「キリスト」単独(244節)
 - 「キリスト」は「救い主」の意。称号
- 「キリスト・イエス」(85節)
 - 新約聖書ではパウロしか使っていない
- 「イエス・キリスト」(81節)
 - 「わたしたちの主イエス・キリスト」34回

「わたしたちの主イエス・キリスト」

- 「わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、」＜ロマ5:1＞
- 「この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。」＜1コリ1:9＞
- 「このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。」＜ガラ6:14＞

主

- 創造主なる唯一の神
 - 「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」＜ロマ10:9＞
 - 旧約聖書におけるYHWHは「主」と訳される
- 人生の土台・教師・導き手・仕えるべき主人
 - 「人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。」＜エフェソ6:7＞
 - 「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。＜1コリ3:11＞」

キリスト

- この世に遣わされた神の子
 - 「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に來られた」という言葉は眞実であり、そのまま受け入れるに値します。」＜1テモ1:15＞
- 救い主
 - 「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」
＜ロマ10:13＞
- 今も生きて働いておられる方

わたしたちの

- わたしたちのことを愛しておられる
 - 「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」＜ローマ5:8＞
- わたしたちと深く関わってくださる
- わたしたちのためならどんなことでもして下さる

「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。」
＜2コリント8:9＞

わたしたちの主イエス・キリスト